



## 「日本の小惑星命名宝鑑」

小惑星会議（自費出版）

12,000円（税・送料込み）

注文先：郵便振替口座 00160-9-16283 富田弘一郎

研究資料

お薦め度

☆☆☆☆☆

1801年の小惑星セレス発見から百年余り後の1927年、東京天文台の及川氏によってわが国初の小惑星が発見された。この発見より前の1900年に麻布の旧東京天文台で二つの小惑星を撮影しているが、これらは正式な発見となっていない。

近年になり、東京天文台木曾のシュミットなどで発見が続いた後、1978年に静岡県清水市の浦田武氏が国内のアマチュアとして初めて小惑星を発見し、同氏の長女の名前である「みずほ」と命名した。

浦田氏の後もアマチュアの実見は続いたが、1980年代の終り頃から大勢のアマチュアが物凄い勢いで小惑星を発見し、日本に関する小惑星の命名も相当な数に上っている。

もちろん、小惑星の命名はサイエンスとは無縁であるが、アマチュアにとっては新発見への最大の原動力であり、公共天文台などではその存在をアピールする手段ともなる。うがった見方をすれば施設の予算獲得に有効かもしれない。

小惑星の命名は、発見者などからの提案を国際天文学連合で審査の上、毎月発行されるMPC（小惑星回報）に掲載され発表となる。MPCに掲載されたすべての命名文を集めた「Dictionary of Minor Planet Names」も出版され、既に第3版を重ねている。

さて、本書は1990年の名古屋での小惑星会議で富田弘一郎氏が出版を提案し、その後有志の手により準備が進んでいったものである。

その内容は、1997年12月までに発表された502個の日本に関する小惑星についての一覧、解説本文、世界の天文台コード一覧、小惑星の命名に関する解説、そして小惑星誕生200年を記念した

2001年1月1日に於ける全掲載小惑星の軌道図などとなっている。

本書は、まだ命名されていない小惑星分が差し込みできるようなバインダー式となっている。だが、未命名の小惑星はまだまだ沢山あるので、既に厚みが5cm以上ある本書が今後どうなるか少々心配でもあり、また追録の発行が楽しみでもある。

解説本文は小惑星毎に別葉となっており、MPCに掲載された英文の命名文、日本語の解説、小惑星名に関連する写真、命名者などから寄せられた資料等となっている。ただ、資料の出典が明らかでないものが多く少々残念である。本文をひとつひとつめくっていくとさまざまな発見があり、この膨大な資料編纂の努力が偲ばれる。

小惑星誕生200年を記念した小惑星の軌道図は、宇宙研の吉川真氏によるもので、それぞれの小惑星がどんな軌道を描いているのかが一目でわかって大変面白い。この軌道図は次のURLで見ることができる。

<http://www.crl.go.jp/ka/control/asteroid/roido/gallery/japan/japan.html>

また、巻末の索引は小惑星名の五十音順であるが、個人名などからも引けるよう工夫されている。

本書を面白いと思うのは評者自身が小惑星にかかわっているからであろう。正直言って、この本は何らかの形で小惑星に思い入れがある人以外にはお薦めできるものではないが、このような書籍が有志の手により自費出版されたことを、大勢の方には知っていただければと思う。

宮坂正大（東京都八王子市）